



ONE CHANCE

～ きりひらけ未来への道を ～

本年度の詫間中学校生徒会スローガンです。校舎にも横断幕として掲げられているため、登校している生徒のみなさんはもちろん、地域の人々の目にも入っているはず。そしてこの時期、まさに3年生へのエールとしても、ぴったりの言葉だと思います。

これまでの中学校生活では、何度もテストを受けてきました。失敗しても次に生かすことができました。また、2月上旬に行われた自己推薦も、2回のチャンスが与えられたという思いで挑戦した人もいます。

でも、公立高校の入試は、この1回きりです。どんなに競争率が高くても、どんなに隣の人が気になっても、最後は自分自身との戦いです。このワンチャンスをものにして、未来への道をきりひらいてください。

ライバルは、たった一人。自分だ。

受験生の皆さん。そして離れて見守る保護者の皆さん。

いよいよ、この日がやってきました。

もうすぐ試験が始まろうとしている今、あなたはどんな顔をしていますか。

ひょっとしたら鏡の中には、いつもと違う自分がいるかもしれません。

その「いつもと違う自分」こそが、今日のあなたの最大のライバルです。

ひとつ深呼吸して、それから笑って、そいつを吹き飛ばしてやりましょう。

あなたはこれから、抱いてきた夢のとびらを開けるのです。

怯むこともない。気負うこともない。

その瞬間にできることのすべてを、思う存分、答案用紙にぶつけてくればいい。

さあ、いつもの通り出かけましょう。夢をその手でつかむために。

※平成21年度浦島伝説第41号(H22.3.8)再掲

県内公立高校入試が8、9日の両日行われる。受験生には健康に注意し、万全の体調で迎えてほしい。

◆ベネッセコーポレーションの社内シンクタンク・ベネッセ教育研究開発センターが昨秋、全国の高校1年生とその母親3085組を対象にインターネット調査したところ、高校受験に関して、「進路についてよく考えることができた」「自信がついた」との回答がともに7割余を超えた◆それ以外も、「達成感があった」「将来の目標ができた」「成績が伸びるのが面白かった」などがあり、受験が大きな成長の機会となったと子どもたちが受け止めていることは間違いなさそうだ◆ただ、「もっと勉強しておけばよかった」が64.5%に上がったほか、「実力相応の高校にすればよかった」「自分の考えで受験校を決めればよかった」など反省の声も◆現在の高校生活については、「学校は楽しい」「日常生活全般が充実」がいずれも8割超え。前向きな声が多い反面、「上手な勉強の仕方が分からない」「勉強をしようという気持ちがわからない」も多く、早くも勉強に悩む姿がうかがえる◆でも、壁があるからこそ、そこを乗り越えるために努力して、人間は成長していくものだと思う。高校入試が終わっても、大学入試や入社試験など、これからの人生でもいろんな壁が立ちはだかるだろう◆「黙り虫壁を通す」という諺があるように、こつこつと努力する人が大きな仕事を成し遂げることができる。あきらめずに、最後までやり切ろう。

(※平成24年3月6日 四国新聞『一日一言』から引用)

交通指導員感謝の集い

3月5日朝、交通指導員さん(富田友良さん、高木光さん、渡辺省三さん、河田光治さん、前川光壽さん、石川勝さん、大坪隆さん、岡田正昭さん、小野博さん)をお招きして、生徒会主催で開催されました。

本年度、命にかかわる重大な交通事故が起きなかったのも、交通指導員さんのおかげです。感謝の気持ちを伝えたり、花束や記念品を渡したりしましたが、行動で表すことが最大の感謝になります。これからも、“AKB”の「K」、交通ルールとマナーをしっかりと守っていきましょう。